

昭和62年度病魚検査概要*

小川 健・木村 創

海産魚類養殖における適切な魚病対策を指導するため、病魚の検査・診断を行った。

方 法

調査依頼のあった病魚について、常法により細菌および寄生虫の検査を行い、症状観察と併せて診断し、分離菌はディスク法による薬剤感受性調査を実施した。

結 果

本年度の病魚持込は介類3件を含む73件で、例年に比較して若干少なかった。

魚種別、月別病魚検査件数は表1に示すとおりで、持込病魚の検査結果による県内魚病分布を図1に示した。

表2、3にブリ病魚由来の類結節症原因菌 *Pasteurella piscicida* および連鎖球菌原因菌 *Streptococcus* sp. の月別薬剤感受性変化を示した。

P. piscicida では例年みられるアンピシリン耐性菌がなく、逆に今まであまりみられなかったオキシリン酸耐性菌が出現した。両薬剤とも類結節症治療薬としてよく使用されることから、今後は投薬に際しての薬剤感受性試験を必ず行う必要がある。

Streptococcus sp. では例年と比較して大きな変化はないが、全般に感受性はやや高い傾向にあった。

* 浅海増養殖試験費による。

表1 昭和62年度 月別・魚種別病魚検査件数

魚種	病名	1987年												1988年			計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3月				
ブリ	ビブリオ病				2												2
	類結節症				3	11	1										15
	〃 ・ビブリオ病				1	1											2
	連鎖球菌症	1					2	3		3	1						10
	〃 ・ビブリオ病									1							1
	側彎症	1															1
	不明				1												1
小計		2		4	15	3	3		4	1						32	
マダイ	ビブリオ病		1	1		1	1	1								1	6
	〃 ・滑走細菌感染症	1															1
	〃 ・類結節症				1												1
	腸管白濁症		1														1
	白点病							1	2								3
	ビバギナ症	1															1
	スレ				1												1
	不明									1							1
小計		2	2	1	2	1	2	4							1	15	
ヒラメ	ビブリオ病			1												1	2
	〃 ・滑走細菌感染症														1		1
	連鎖球菌症				1	3											4
	〃 ・エドワジェラ症					1											1
	エドワジェラ症									1							1
	白点病								1								1
	ウーディニウム症															1	1
小計			1	1	4		1	1					1	2		11	
シマアジ	ビブリオ病				1												1
	〃 ・類結節症				1												1
	連鎖球菌症					1											1
	細菌性鰓病							1									1
	細菌感染症														1		1
	不明					1	1										2
小計				2	2	2								1		7	
インダイ	連鎖球菌症					1											1
〃	ビブリオ病							1									1
トラフグ	〃 ・連鎖球菌症							1									1
クルマエビ	鰓黒病・ビブリオ病					1											1
〃	鰓黒病							1									1
アワビ	細菌感染症				1												1
	合計	4	2	6	21	12	10	5	5	1			1	4		71	

小川・木村：昭和62年度病魚検査概要

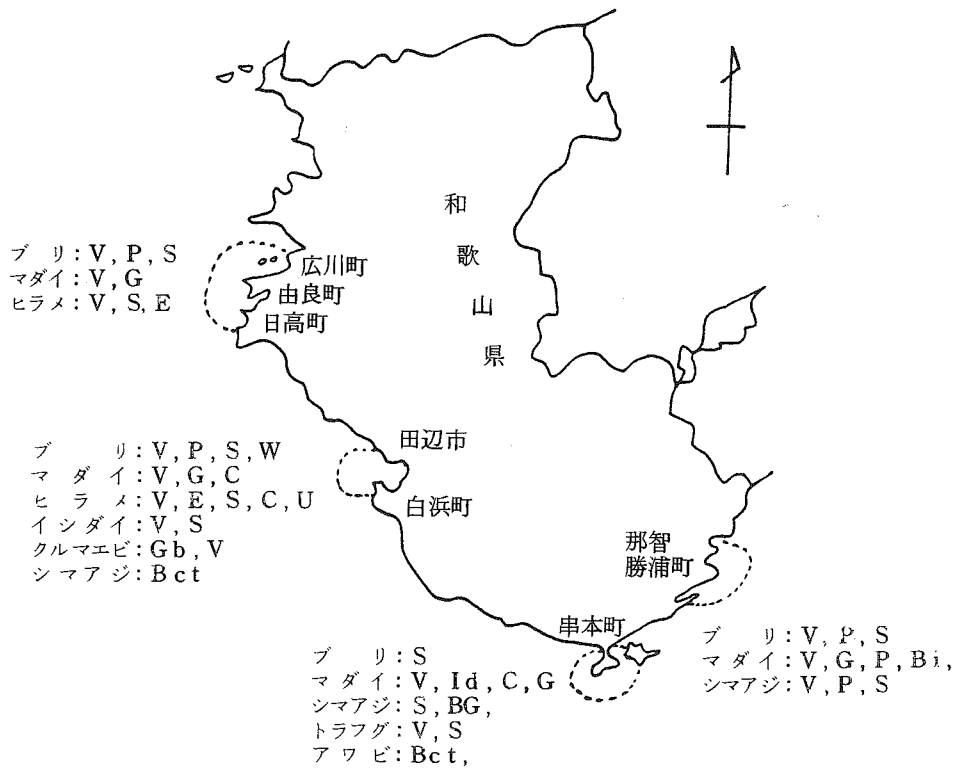


図1 昭和62年度 魚病分布図

- V: ビブリオ病 P: 類結節症 S: 連鎖球菌症
E: エドワジェラ症 G: 滑走細菌症 BG: 細菌性鰓病
Bct: 細菌感染症 Id: 腸管白濁症 Bi: ビバギナ症
C: 白点病 U: ウーディニウム症 Gb: 鰓黒病
W: 側弯症

表2 ブリ病魚由来 *Pasteurella piscicida* の薬剤感受性

薬 剤 名	'87年6月				7月				8月				計			
	卅	卅	+	-	卅	卅	+	-	卅	卅	+	-	卅	卅	+	-
塩酸オキントラサイクリン	3				3	8			1				6	9		
塩酸テトラサイクリン	3				1	2							4	2		
塩酸ドキシサイクリン	3				10	1			1				14	1		
アンピシリン	2	1			11				1				14	1		
エリスロマイシン		1				5	2				1			6	3	
ニフルステレン酸ナトリウム	2	1			6	4	1		1				8	6	1	
スルフモノメトキシン				1				9				1				11
オキシリジン酸	1	1		1	5	2	3	1			1		6	3	3	3

卅: 極めて感受性あり 卅: かなり感受性あり +: 少し感受性あり -: 感受性なし

表3 ブリ病魚由来 *Streptococcus* sp.の薬剤感受性

薬 剂 名	'87年8月				9月				11月				計			
	卅	卅	+	-	卅	卅	+	-	卅	卅	+	-	卅	卅	+	-
塩 酸 オ キ シ テ ト ラ サ イ ク リ ン	1	1		2				3					6	1		
塩 酸 テ ト ラ サ イ ク リ ン	2												2			
塩 酸 ド キ シ サ イ ク リ ン	2			2									4			
ア ン ピ シ リ ン	2			2				3					7			
エ リ ス ロ マ イ シ ン		2		2				3					5	2		
エンボン酸スピラマイシン			2			2		1	2				1	6		
ポリスチレンスルホン酸オレアンドマイシン	1				2								3			
ス ル フ モ ノ メ ト キ シ ン				2				1								3
ニフルスチレン酸ナトリウム	1		1	1	1			3					5	1	1	
ナ リ ジ キ シ ッ ク 酸			1	1				1							1	2

卅:極めて感受性あり 卅:かなり感受性あり +:少し感受性あり -:感受性なし